

般に認められているスギの品種のタイプのなかでもこれを考えてみた。すなわち、井上氏の19の品種が一般的呼称の品種のどの系列にあるかを知るため、林業試験場の石崎技官にサンプルを送付して鑑定を仰ぎ、それに基づいて一本一本の樹木のいろわけを行つた、これは相当に骨の折れる作業であつたが、筆者等の品種

識別についての知識の未熟も手伝つて誤認も多いことと思う。もし誤りがあつたとしても、それはこのような理由によるものであつて、石崎技官の鑑定結果には全く関係がない。学兄諸氏の指摘を仰いで漸次訂正して行きたい。

第2表は筆者等の行つた分類である。

2. 日田地方におけるスギの品種に関する研究

第2報 品種別成長量の比較について(1)

大分県林業課 長野 愛人・野仲 忠彦

まえがき

筆者は第1報において日田郡上津江村井上篤氏の所有林内のスギ品種比較試験地において、品種の構成を明らかにしたが、本報告においては品種別の成長量の比較を試みたい。

なお、本報告においては毎木調査の結果に基づく総成長量の比較に止め、標準木の樹幹析解の結果に基づく、連年及び平均成長量や、成長率の比較並に樹令及び樹冠の疎開度等を勘案した成長量に関する全般にわたる検討は第3報に譲りたい。

1. 調査の方法

試験地を周測し、試験木一本一本に一連番号を附し、毎木調査を行つた。胸高直径は地上1.2米の最長、最短径を耗単位で測定し、平均値を使用した。

樹高は毎木につき実測することなく、試験地並にその周辺の同令林分の間伐木174本を伐採して実測し、樹高曲線(フリーハンド)により50種単位にて算出した。

このさい品種は考慮しなかつたが、品種による樹高

成長の差異については次の機会に検討したい。

なお、クローネの投影図を画き品種別の色わけを行う目的で林木の配置を実測したが、調査期間の関係で、調査未了である。近く再調査の上完成したい。

第1表はそのさい実測した林木配置図である。(表省略)

2. 胸高直径の測定

品種別直径配分(2cm括約)を示すと第2表及び第3表のとおりである。(表省略)

3. 樹高の測定

間伐木174本より求めた樹高曲線により算出した直径対の樹高は第4表のとおりである。(表省略)

4. 材積計算

材積の計算は熊本管林局の材積表を使用し、比例配分により、省径耗単位、樹高50種単位の材積を計算した。

その結果は第5表及び第6表のとおりである。(表省略)

3. 地方的マツ品種の直播試験について(第1報)

鹿児島県林業試験場 上野 一夫・八重 倉優

1. まえおき

マツ類は針葉樹の中で用途および適応性の面より重要樹種の一つであるが、先般幸に全国的に有名な12品種の適応試験を実施する機会に恵まれたので、さし

あたり播種後1年有余の観察的結果について述べたい。

2. 試験方法